

風

かぜ カゼ

2000. 2. 15発行 NO. 18

◇サバク緑化の夢

去る1月26日築地別院で、砂漠緑化の夢を追いつづけておられる遠山正瑛氏の貴重な講演を聴く機会に恵まれました。遠山氏は鳥取大学名誉教授で40年来中国の砂漠開発に尽力され、現在も94才という高齢でありながら、現地でも年100日余、開発作業の陣頭指揮をなさっておられるとか。現在は黄河上流区域の「ケブチ砂漠」の一地域を「アミダの森」と呼称し全国から集まったボランティアの「緑の協力隊」の奉仕活動を基に2年間5次にわたってポプラ樹を3000本植樹し砂漠が森と変貌しつつあるとの話でした。十年後にはその地に1億本の植樹をし森林と周辺に農地の開発が目標とのことでした。

砂は生産性が高く農地開発には最適という先生の信念と実績が多くの人々の共感を呼び、着実にこの事業が定着し始めたとの談でした。夢が広がるお話しでした。

◇お香について

今号はお香について触れてみます。仏教はご存知の通りインドでうまれました、印度は特に香を大切にす民族でありますので、仏の莊嚴にも香を珍重し塗香といって身体に香を塗り莊嚴の部屋では香をたき仏儀式のなかでは香を薫じるのが仏莊嚴の習わしとなっていました。仏教がインドから中国朝鮮を経て日本に伝来されたのですが、香は作法としてそのまま伝承されたと考えられています。

◇今月の安樂寺伝道掲示板

やれなかった

やらなかった

どっちかな？

相田みつを